

# Good Choice

グッドチョイス

まちの話題をお寄せください。

総務部広報統計係 ☎75-2116 / ㊚75-2110

一人ひとりの活躍が地域の安全を守っています



約350人の参加者に、「意識をもって、言葉にしていなければ自分を大切にすることはできません。自分を大切にできて初めて人様も大切にできる。優しい、温かい思いで、包むことができます。だから、あるがままを受け入れてご自分を好きになってください」と話される木村さん

感謝の想いを言葉にしましょう。きれいな所作をしましょう

木村まさ子さんの食育講演会

子どもが輝く食育ネット多久は1月19日、木村まさ子さんを講師に招き、食育講演会を中央公民館で開きました。

木村さんは、自身の子育ての経験から感じる言葉と食育の大切さをテーマに全国各地で講演活動を行われている薬膳レストランの元経営者。『育み はぐくまれー日々の中にある大切なことー』を演題に、自身が大切にされている言葉“いただきます、おいしい、ごちそうさま”をもとに、優しく包み込むようなまなざしと声で「私たちは、動植物など多くの命をいただいて、自分の命をつないでいます。だから感謝の想いを言葉にすることが大切で、力や命の基となるだけでなく、感性や情操など見えない大切なものを育み、大人がどう関わるかで違う」などと、その言葉の持つ意味や交わり方、所作が導くことや命の大切さなどを説き、「ご自身を綺麗な日本語、やさしい言葉でねぎらってください。しっかりとこの命、生き抜きましょう」と結びました。

1月10日に多久市消防団の出初式が行われ、中央公民館での式に先立って約400人の団員が、緑が丘少年鼓笛クラブを先頭に分列行進し、横尾市長の観閲を受けました。

式では横尾市長が「火災や水防、行方不明者の捜索に、連携して全力であたるみなさんの姿を見て、安心し、心強く思うたくさんの市民の方がいらっしゃることをあらためてお伝えしたい。そのことを誇りに思って頑張っていたきたいと思います」と参列した団員を激励。

陣内成和団長は訓示の中で、昨年7月の豪雨の水防活動や行方不明者の捜索活動など、団員の尽力に慰労の言葉をかけ、「本年も400名の団員、心をひとつにし、市民のみなさまのために努力してまいります」と挨拶し、年頭の決意を述べました。式の後、羽佐間の牛津川河川敷でポンプ車による一斉放水を行い、カラフルな水のアーチを披露しました。

多久市消防団出初式



▲参列した団員に、壇上で訓示を述べる陣内団長

## 各家庭の繁栄に、もぐら〜打ち♪

1/14



毎年恒例の伝統行事『もぐら打ち』が市内各地で行われました。南多久町泉町区でも小学1年から中学3年までの約60人が公民館に集まり、6班に分かれて区内の各家庭へ出発。玄関先で「鶴は千年、亀は万年、浦島太郎は八千年、このの旦那は万々年…。もぐらを打って祝いましょう」と元気よく歌いながらもぐらを打ち、家内安全や繁栄を祈りました。

## 岸川区の活性化に結集 愛好会が炭窯づくり

1/11



ものづくりのよさや伝統を伝え、区の活性化に役立てようと、岸川区で発足した炭窯愛好会の有志30人が、炭づくりに乗り出しました。知恵を集め、材料を持ち寄り、計画から実行へと動き出したのは昨年12月20日。代表の木戸利孝さんは「経験者はおらず、炭窯づくりから始まった作業は、四苦八苦。その分、出来上がりの喜びは倍でしょう。熱心なみなさんばかりです」と話され、作業に専念。山里の資源を活かした炭はまず、区の行事に合わせて活用の計画です。